

彌兵衛翁の銅像除幕

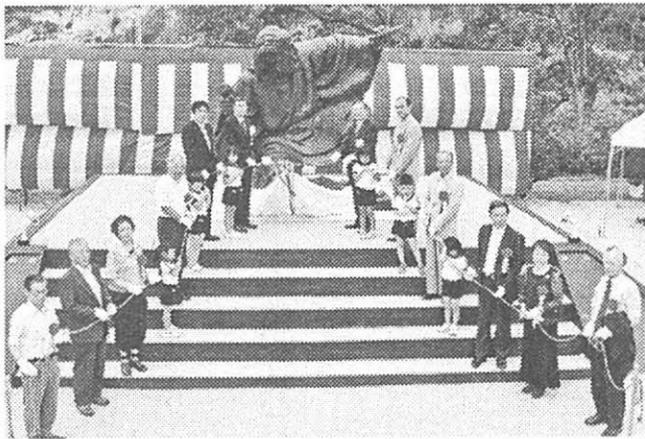
偉業を称え
「水の日」に 小松電機産業が寄贈

本紙が7月7日付から連載している「悠久の河周藤彌兵衛翁物語」（村尾靖子作）の舞台となつた松江市八雲町日吉の日吉親水公園で1日、主人公・周藤彌兵衛翁の銅像除幕式が、来賓はじめ関係者ら約200人が出席して盛大に行われた。この日は水循環基本法の制定後、法制化された初の「水の日」。彌兵衛翁の不屈の志と生き方、勇気と愛、平和の大切さを伝える格好の一日となった。

式典は周藤彌兵衛顕彰会（矢野秀行会長）、小松電機産業（小松昭夫社長）・人間自然科学研究所が主催。来賓はじめ地元のみよし保育園の園児

らによって銅像から幕が外され、大きな拍手が沸き起こった。

銅像は高さ2・65m、幅2・8m、奥行1・7mで重量は1・3t。中国・山東省棗庄市で約5カ月かけて製作。デザインしたのは、本紙連載「悠久の河」の挿絵を描いた



高さ2.65mの銅像を披露

飯南町出身の童話挿絵画家、故高田勲さん。

主催者を代表して矢野会長は「今まで彌兵衛翁を題材にした本の出版や銅像の制作、『大志の都』構想の提案などを行ってこられた小松昭夫小松電機産業社長・人間自然科学研究所理事長から銅像寄贈のお話をいただき、ありがとうございました。ただ設置するだけではなく、訪れた人に彌兵衛翁の偉業をさらに理解していただき、この地を中心とした人々の交流や賑わいを創出していきたい」と述べた。

小松社長は「顕彰会を中心に彌兵衛翁の偉業を世界に広めたい。この建

を機に世界平和の流れを生み出すのが私の使命。自然の営みと新しい科学技術を組み合わせる新たな潮流を世界へ発信していきたい」と、建立の熱い思いを語った。

来賓の浜田和幸参議院議員は「水は味方にすれば強いパワーを発揮するが、敵に回せばこれほど恐ろしい存在はない。水害も津波も猛威を振るう。しかし、そういった水や自然を理解し、自然とともに生きることこそが、これからの時代、日本が世界に向かって発信すべき大きなメッセージではないか」と建立の意義を語った。